

田植え後の管理

○水管理

活着するまでは根からの吸収能力が低下しています。その影響を軽くし、苗の植痛みを防止することが大切です。除草剤散布後、活着や除草剤の効果を高めるために深水管理としましょう。活着後は水温を上昇させるため、好天の時には2~3センチの浅水とし、気温が15℃以下となる低温や強風の時には深水とするなど、こまめな水管理に努めましょう。



○取り置き苗は早期に処分

取り置き苗は、いもち病の発生源となります。田植えが済んだら取り置き苗は直ちに処分しましょう。葉いもちを抑えることが穂いもちを抑えるポイントです。

○カメムシ防除のため6月上旬にも畦畔の草刈りを行いましょう

カメムシの成虫は年3回発生します。6月上旬の草刈りはカメムシの1回目の発生量を抑制し、その後の発生量も少なくする効果があります。地域一斉で行うとより効果的です。計画的に実施しましょう。

※注意

これから気温が上昇する時期となります。作業時はこまめに休憩や水分をとり、農作業事故に十分気をつけましょう。

農薬使用時はラベルをよく読み、散布量や希釈倍率を間違えないようにしましょう。